様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ００７６０

研究課題名（和文）日本語母語話者韓国語学習者の誤用データに基づく教材開発に関する研究

研究課題名（英文）A study on the development of teaching materials based on misuse data of Japanese korean learners

研究代表者
印　省熙（IN, Sunghi）

早稲田大学・文学学術院・教授（任期付）

研究者番号：１０４４５７０２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本語を母語とする韓国語学習者の作文から得られた韓国語の誤用・正用のデータを用い、誤用防止のための指導案と、実践的なドリル問題を盛り込んだ教材を開発し、韓国語教育の現場に貢献することを目的としたものである。研究の成果として、『韓国語誤用防止のための手引き－作文の誤用データに基づく指導案とドリル－』(私家版)を完成した。本冊子は、韓国語教育の現場において有用な資料となるであろう。

研究成果の学術的意義や社会的意義
外国語教育において学習者の母語の影響により生じる誤用は多い。したがって指導の際に、学習者の母語と、学習言語の相違について適切な説明を行うことは、学習者が正しい外国語を身に付け、自然に使いこなすために必須である。本研究では、日本語を母語とする韓国語学習者の誤用を防ぐための指導案と、指導案の内容に沿ったドリルを作成した。これらは実際の学習者の作文をベースに作られているため、韓国語の指導や学習に具体的な成果が期待できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research was to contribute to the field of Korean language education by using data on error and correct use of the Korean language obtained from the compositions of Korean language learners who are native speakers of Japanese, and by developing teaching materials that include an instructional plan for preventing error and practical drill questions. As a result of the research, a “Guide to Preventing errors in Korean - Instructional Plan and Drills Based on Data on errors of Compositions”(private edition) was completed. This booklet will be a useful resource in the field of Korean language education.

研究分野：韓国語教育

キーワード：日本語母語話者　韓国語学習者　誤用防止　指導案　ドリル

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本語を母語とする韓国語学習者の誤用は初級から上級にかけて共通したものが多く見受けられる。上級者の場合にも初級学習項目についての誤用を犯すことがあり、その中には学習初期の指導によって防止できるものも多い。したがって日韓対照言語学の視点から日本語母語話者における韓国語の誤用を分析し、それを防止するための教材の作成が必要であると考えた。

このような問題意識のもと、本研究陣は先ず、2015 年～2017 年に科学研究費(基盤研究(C)15K02701)の助成を受け、「日本語母語話者の韓国語学習における誤用分析および誤用改善のための指導案作り」という題目で研究を開始した。これは日本語母語話者の韓国語学習における誤用の改善と防止を目的としたものであり、具体的には日本の大学で学ぶ学習者、なかでも中級学習者の作文データを資料として、誤用の内容を体系的に分類し、誤用の生じる潜在的な要因を日韓対照言語学の視点から説明するとともに、既存のテキストの記述内容を調査し、誤用を未然に防ぐための指導案を提示した。またそれを冊子にまとめて『韓国語誤用防止のための手引き-作文の誤用例に基づく指導案-』(私家版)を作成し、一部の指導者に配布した。

本研究ではその指導案が韓国語教育の現場においてより広く活用されるよう、誤用項目の拡充と内容の精緻化を図るとともに、実際の教育の現場で用いることのできる実践的なドリル問題を盛り込んだ教材の開発に取り組むこととなった。

２．研究の目的

本研究は、日本語を母語とする韓国語学習者の作文から得られた韓国語の誤用・正用のデータを用い、誤用防止のための指導案と、実践的なドリル問題を盛り込んだ教材を開発し、韓国語教育の現場に貢献することを目的としている。

３．研究の方法

先ず、『韓国語誤用防止のための手引き-作文の誤用例に基づく指導案-』(私家版) (印省熙ほか 2018)の内容の拡充・補完を行いながら新たな指導案と、その指導案に沿ったドリルの試案を作成した。そして学会や論文等での発表を通じて得た意見を参考に検討と修正を重ね、最終的な指導案およびドリルを完成した。

４．研究成果

(１)研究内容の公表

研究過程において学会発表(「韓国語学習者の誤用防止のためのドリル問題の試案」印省熙ほか 2021、「韓国語接続形の誤用を防ぐための指導法とドリル」印省熙ほか 2022)や論文執筆(「韓国語学習者における誤用防止のための指導法とドリルの試案」白寅英ほか 2022)を通じ、韓国語教育に携わる教師や研究者に誤用を未然に防ぐための指導法についての示唆を与えるとともに、それに沿ったドリルを提示して実際の授業での活用を促した。

また、本研究資料のうち、誤用例のデータベースと、学習者が作成した実際の作文(総数 3,892 文、36,375 語節)の原文、および教師が添削した修正文の電子ファイルを日本と海外の学会発表(「日本語母語話者韓国語学習者の作文資料について」印省熙 2020、「日本人韓国語学習者の作

文資料と韓国語の誤用研究について(原題：韓国語)」印省熙 2021)のさいに紹介し、国内外の希望する研究者に提供した。

そのほか、本研究に伴って発表した論文としては、「接続形‘-고’と‘-어서’の誤用防止のための実践事例 - 初級での先行の用法を中心に - (原題：韓国語)」(印省熙 2020)、「対照言語研究と言語教育－日本語母語話者韓国語学習者の誤用例を通して - 」(印省熙 2022)、「『ことばの架け橋』を用いた語彙指導に関する研究」」(山田佳子 2021)、「「もう」を表す韓国語「벌써」、「이제」、「이미」の教室での指導法について」(山田佳子 2022)、「日本語話者に見られる「하다」「보다」「받다」「있다」の誤用に関する一考察-日本語とのズレに着目した学習方法-」(山田佳子 2023)がある。

（２）指導案とドリルについて

本研究の成果をさらに広範囲に提供すべく、内容を拡充したうえで冊子、『韓国語誤用防止のための手引き - 作文の誤用データに基づく指導案とドリル - 』(私家版)（印省熙・山田佳子・白寅英・宋美玲 2023)を作成した。当冊子は、語彙編３２項目と文法編３２項目の合計６４項目について、それぞれ「指導案」と「ドリル」で構成されている。

語彙編では、「가다/다니다(行く)」、「간단하다/쉽다(簡単だ)」、「것/일(こと)」、「곧/바로/금방(すぐ)」、「기억하다/외우다(覚える)」、「다시/또(また)」、「달리다/뛰다(走る)」「대단하다/힘들다(大変だ)」、「마지막/끝(終わり)」、「벌써/이제/이미(もう)」、「빨리/일찍(はやい)」、「섭섭하다/외롭다/아쉽다(寂しい・残念だ)」、「지내다/보내다(過ごす)」など、日本語の一つの表現に二つ以上の韓国語が当てはまるために、日本語母語話者には使い分けが難しいことばをとりあげ、誤用の原因分析と使い方の違いを「指導法」に提示した上で、ドリルを通して正しい使い方の練習ができるようにした。

文法編では、使用場面によって使い分けを必要とする助詞のペア、「가(が)/는(は)」、「가(が)/를(を)」、「도/나(も)」、「에/로(に)」、「에(に)/에서(で)」や、日本語と韓国語で使用の有無が異なる助詞「φ/에(に)」、「의(の)/φ」のほか、日本語表現に引きずられて誤りやすい表現形式のペア、「하고/해서(して)」、「해서/하니까(するから)」、「하면/하니까(したら)」、「해서/한 지(して)」、「해서・하고 / 하면서(して)」、「이다/하다(だ)」、「에 되다/가 되다」・「가 되다/해지다」(～になる)、「해 주세요/하세요(してください)」などを取り上げている。

上述のような各項目の「指導案」は実際の学習者の作文から採集した誤用例と、それに関連するテキストや辞書、参考書等の内容を精査してまとめた関連記述、誤用の原因と誤用防止の方法を解説した指導法、それに沿って作成した「ドリル」で構成されている。ドリルは各項目別に学習効果を狙って多様な類型の問題を提示するよう努めた。具体的には、類似した意味のことばや文法の使い分けを問う選択問題や、文脈から意味の比較がしやすい対話文を用いた問題、確実な定着を図るための作文問題などが与えられている。また、教室での配布を念頭に解答欄をブランクにした問題を「ドリル集」として巻末に掲載した。

指導法とドリルの一例を挙げる。

「벌써/이제」(語彙編)

２つのことばはどちらも日本語の「もう」で表現されるため、下の例のように「もう 20 歳になったのだから」の「もう」に「벌써」を用いるという誤用が起こる。

（誤用例） 벌써<→ 이제> 우리 서로 20 살이 됐으니까 술집에라도 안 갈래?

この使い分けについての指導法として、学習者には「벌써」の表現する「もう」は思っていたより早く物事が進むことを意味し、「早くも」のニュアンスがある一方、「이제」は現在の状況を過去から未来への一定の時間の幅の中でとらえることを説明し、具体的に「아직 8 월인데 벌써 신학기가 시작됐어요?」「네, 이제 늦잠은 못 자요.」といった対話文によって意味の違いを理解させると効果的であることを述べた。

この指導法に沿って、ドリルでは、次の 3 種の問題によって練習できるようにした。

①意味の違いを判別する選択問題

「세일 상품은 첫째 날에 < 벌써 / 이제 > 다 팔렸어요.」

②どちらかを入れて対話文を完成する問題

「A: < 이제 > 일주일만 지나면 개학이네요.／B: < 벌써 > 그렇게 됐어요?」

③日本語文を韓国語文に直す問題

「もう卒論だけ出せば卒業できます。→ 이제 졸업 논문만 내면 졸업할 수 있어요.」

（3）今後の課題

今後はこの指導案とドリルを実際の授業で用いて効果を検証し、より多くの教育現場で活用されるように検討を重ねていくことが必要である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 印省熙	４．巻 10
２．論文標題 接続形‘-ko’と‘-eoseo’の誤用防止のための実践事例‐初級での先行の用法を中心に‐（原題：韓国語）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 韓国語教育研究	６．最初と最後の頁 204-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山田佳子	４．巻 12
２．論文標題 『ことばの架け橋』を用いた語彙指導に関する研究	５．発行年 2021年
３．雑誌名 国際地域研究論集	６．最初と最後の頁 115-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 白寅英・印省熙・山田佳子・宋美玲	４．巻 23-2
２．論文標題 韓国語学習者における誤用防止のための指導法とドリルの試案	５．発行年 2022年
３．雑誌名 マテシス・ウニウェルサリス	６．最初と最後の頁 119-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 印省熙	４．巻 29
２．論文標題 対照言語研究と言語教育－日本語母語話者韓国語学習者の誤用例を通して‐	５．発行年 2022年
３．雑誌名 対照言語学研究	６．最初と最後の頁 95-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山田佳子	4．巻 13
2．論文標題 「もう」を表す韓国語「pelsse」、「icey」、「imi」の教室での指導法について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 国際地域研究論集	6．最初と最後の頁 113-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山田佳子	4．巻 14
2．論文標題 日本語話者に見られる「hada」「poda」「patta」「itta」の誤用に関する一考察-日本語とのズレに着目した学習方法-	5．発行年 2023年
3．雑誌名 国際地域研究論集	6．最初と最後の頁 161-168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 印省熙
2．発表標題 日本語母語話者韓国語学習者の作文資料について
3．学会等名 朝鮮語教育学会
4．発表年 2020年

1．発表者名 印省熙・山田佳子・白寅英・宋美玲
2．発表標題 韓国語学習者の誤用防止のためのドリル問題の試案
3．学会等名 朝鮮語教育学会
4．発表年 2021年

１．発表者名 印省熙
２．発表標題 日本人韓国語学習者の作文資料と韓国語の誤用研究について（原題：韓国語）
３．学会等名 台湾国立高雄大学　韓国研究センター　国際学術大会（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 印省熙・山田佳子・宋美玲・白寅英
２．発表標題 韓国語接続形の誤用を防ぐための指導法とドリル
３．学会等名 日本韓国語教育学会（国際学会）
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山田　佳子 (YAMADA Yoshiko) (10425366)	新潟県立大学・その他・名誉教授 (23102)	
研究分担者	白　寅英 (BACK Inyoung) (80749945)	獨協大学・国際教養学部・非常勤講師 (32406)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	宋　美玲 (SONG Meeryung)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	張　美仙 (JANG Misun)		
研究協力者	郭　珍京 (KWAG Jingyeong)		
研究協力者	貝森　時子 (KAIMORI Tokiko)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関